

I 業務運営・財務内容等の状況

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

① 評価の充実に関する目標

中期目標	1) 自己点検・評価体制の整備 ○ 教育研究活動及び管理運営に関して、中期計画の履行状況を定期的に自己点検・評価を行い、問題点の改善につなげる体制を整備する。 2) 自己点検・評価及び外部評価等の反映 ○ 社会からの意見を収集し、大学運営の参考にするなど、自己点検・評価、外部評価、計画への反映といったPDC Aサイクルを実行する。
------	---

中期計画	年度計画	進捗状況	ウエイト
1 評価の充実に関する目標を達成するための措置 1) 自己点検・評価体制の整備に関する計画			
【23】 大学評価室は、組織データの収集・整理・閲覧体制を整備するとともに、関係組織と連携して、全学の自己点検・評価を一元的に企画・立案・実施し、外部評価の結果を踏まえ、改善措置を講じる。	【23-1】 引き続き、大学評価に必要となる情報として、「大学評価室が毎年度収集するデータ」、「事務局の各課において整理・保管するデータ」及び「公表情報または各種調査等での回答を活用するデータ」の区分により、組織データの収集、整理を行う。	III	
	【23-2】 引き続き、大学評価室において、「中期目標・中期計画進捗状況管理システム」を運用し、各部局の中期目標・中期計画、年度計画の一元管理を実施する。	III	
	【23-3】 平成23年度実施の自己点検・評価及び平成24年度実施の外部評価を通して明らかになった課題に対し、改善を実施する。	IV	
	【23-4】 引き続き、「学部等固有の年度計画」を策定し、学部、研究科、各教育研究センター等の活動状況の収集・分析を行い、自己点検・評価に活用する。	III	
	【23-5】 過去に実施した自己点検・評価の実施体制や方法に関する検証を行った上で、大学機関別認証評価の受審に向けた準備を開始する。	III	
2) 自己点検・評価及び外部評価等の反映に関する計画			
【24】 大学評価基礎データベースを中心に、教員と学生の個人別活動情報を収集し、組織別集計を行う。また、評価や申請書に活用される書式を想定した学内情報の収集・整理を行い、情報を共有できる閲覧方式を整備する。	【24-1】 引き続き、大学評価室において、大学評価基礎データベースシステムにより、教員等の教育研究等業績に関する情報を継続して収集・分析する。	III	

	<p>【24-2】 引き続き、中期目標・中期計画進捗管理システムを用いて、学部、研究科、各教育研究センター等による「学部等固有の年度計画」の進捗状況を学内に周知する。</p>	III	
<p>【25】 各部門、各教育研究センター、各業務管理センター並びに事務局各課における活動状況、自己点検・評価及び改善に向けた取り組みについて、広く学内外に公表する。</p>	<p>【25-1】 自己点検・評価及び外部評価結果から明らかになった課題等に対する改善状況をホームページ等により学内外に公表する。</p>	III	
		ウェイト小計	

I 業務運営・財務内容等の状況
 (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標
 ② 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期目標
 1) 諸情報の一体的な発信
 ○ 大学の理念や教育目標、教育研究活動、管理運営活動に関する諸情報を積極的に発信し、社会に対する説明責任を果たす。

中期計画	年度計画	進捗状況	ウエイト
2 情報公開や情報発信等に関する目標を達成するための措置 1) 諸情報の一体的な発信に関する計画			
【26】 大学評価基礎データベース、研究者総覧、知のシーズ集、K I T 学術成果コレクション及びシラバスの各システムを結合し、情報を収集、発信、閲覧及び活用する際の利便性を向上させる。	【26-1】 引き続き教員の大学評価基礎データベース、K I T 学術成果コレクション、研究者総覧のデータ連携を実施する。	III	
【27】 広報センターにおいて、広報マニュアルに従い種々の広報媒体を駆使して、多角的かつ積極的な広報活動を行うとともに、広報効果を測るため、専門家の助言に基づき、関係者並びに社会の意見を聴取する。	【27-1】 引き続き、正確で新しい情報を発信するために、学内に設けた「ホームページ点検委員」により、定期的に点検する。	III	
	【27-2】 情報化社会に対応したホームページへのリニューアルの検討を進める。	III	
	【27-3】 引き続き、地域社会と本学の協力関係を強化するため、地域への情報発信などを行う。	IV	
	【27-4】 引き続き、京都大学記者クラブ、文教速報及び文教ニュースへの投稿等、多様な手段を用いて積極的に情報発信、情報提供を行う。	IV	
	【27-5】 引き続き、広報効果を定期的に検証するため、広報誌読者及びオープンキャンパス参加者へのアンケート調査を実施し、またホームページのアクセスログ解析を行う。	III	
【28】 I T を活用して、キャンパス相互の通信網の整備と連携大学との有効な相互接続を行う。	【28-1】 引き続き、松ヶ崎キャンパスと嵯峨キャンパス、京丹後キャンパス、ならびに京都ノートルダム女子大学との間の高速ネットワークを管理・運用する。	III	
ウエイト小計			

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する特記事項

○SNSや全国メディアを通じた大学情報の積極的な発信

大学の特色ある教育研究活動をより積極的に発信するため、平成25年7月より、大学公式SNS（facebook、twitter、LINE）を開設し、これらを活用した大学情報の発信を開始した。LINEを活用した情報発信は、国立大学初の取組であり、地元の新聞紙でも取り上げられている。facebookについては、facebookに関する情報提供サイトであるfacenaviにおいて、週間話題のfacebook大学ページランキングで2週連続1位になるなど常に上位に入っており、ユーザーからの注目を得ている。

また、新聞各社へも積極的に本学の取組を紹介し、その結果、全国紙に本学の特色ある教育内容や機能強化に向けた改革状況などが掲載されるなど、全国メディアを通じた大学情報の発信も強化した。

< 関連計画：【27-4】 >

○学生広報チーム「K-NOSBY」の結成

大学公式SNSの開設に併せて、本学の魅力を、学生が主体となって学生の目線でも発掘・発信するため、学生による大学広報チーム「K-NOSBY」を平成25年7月に発足させた。学生10名が活動しており、週に一回のペースでチーム会議を行い、学生独自の取材に基づき、本学の魅力をはじめとして、学内行事や四季折々の京都の風景を大学公式facebookや大学広報誌をとおして発信した。

< 関連計画：【27-4】 >

○オープンユニバーシティウィーク2013の開催

地域の小中学生や受験生に対する大学広報の効果を上げるため、平成25年7月20日から8月10日までの期間を「オープンユニバーシティウィーク」とし、各課程や教育研究センターで実施している体験学習や模擬授業などの大学開放事業を多くの受験生等が集まるオープンキャンパスの開催と連動させ、一元的に実施した。その結果、オープンキャンパスの参加者が前年度に比して約700名増加した。

< 関連計画：【27-3】 >

○外部評価及び自己点検・評価結果に基づく課題の改善

平成23年度に実施した自己点検・評価及び平成24年度に実施した外部評価の評価結果に基づく、今後取り組むべき課題のうち、教養教育に係るカリキュラム、FD活動の活性化、学習達成度の把握、施設・設備の老朽化、異分野研究の連携・融合、研究支援体制の整備、国際化の推進等に関する課題について、改善策を講じ、その改善状況を「外部評価及び自己点検・評価結果に基づく、今後取り組むべき課題の改善状況について」として取りまとめ、ホームページで公表した。

< 関連計画：【23-3】、【25-1】 >

○平成26年度に受審する大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価に向けた自己点検・評価の実施

平成23年度に実施した自己点検・評価の実施体制、スケジュール、アンケートの意見等を踏まえ、平成26年度に受審を予定している大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価における自己点検・評価の実施体制・スケジュールを策定した。自己評価書の作成に当たっては、データ等を各業務管理センターや各課・室等から収集したうえで、大学評価室で一元的に分析を行い、その分析結果に基づき、自己評価書の素案を作成した。

< 関連計画：【23-5】 >